

地 域 再 生 計 画

1 地域再生計画の名称

行ってみたい『茶源郷』づくりによる地域再生

2 地域再生計画の作成主体の名称

京都府相楽郡和束町

3 地域再生計画の区域

京都府相楽郡和束町の全域

4 地域再生計画の目標

() 地域を巡る背景

和束町は京都府の南部に位置しており、面積の75%を山林が占める緑豊かな地域である。古くから丘陵地において茶産業が営まれ、高品質な宇治茶の産地として知られてきた。

町の人口は4,998人(平成17年国勢調査)で、人口減少は著しく、2010年の人口推計では約1割が減少するとされている。背景にある少子高齢化は深刻であり、2010年には老年人口が40%と見込まれるなど、人口減少・少子高齢化への早急な対応が求められているのが実情である。

和束町は山間地に位置する為平地が少なく、道路も狭く大型車の乗り入れが困難であることから、企業誘致に必要な条件を満たすことができない。このため町外からの企業の進出が無く、大企業を中心とした雇用は発生しない。中心産業は古くから茶の生産・加工であり、雇用は小規模なケースが見られるのみである。このため和束町を管轄する京都田辺公共職業安定所の平成18年度(平成18年4月～平成19年3月)の有効求人倍率は0.51倍と京都府平均1.02倍を大きく下回り、町内の雇用情勢は極めて厳しい。

町の基幹産業は茶産業であり、茶による一次産業・二次産業が中心となっている。和束産の茶は宇治茶の約4割を占め、高品質な茶として知られ市場でも高価格で取引されている。しかし、京都産の茶は全て「宇治茶」として市場に流通することから、一般消費者には「和束茶」としての認知度や知名度は無く、「和束茶」としてのブランド力がない。また、茶産業の担い手は著しく高齢化が進み後継者不足に陥りつつある。実際、茶産業は山の急斜面での重労働が必要であり、植栽後、収穫までに最低でも5年かかるという参入障壁の高い産業であることや生産者の高齢化から荒廃茶園の面積も拡大しつつある。

茶産業の他には伝統産業ともいえる、しめ縄産業などがあるが、こちらは正月飾りなどの減少で市場が衰退傾向にあり、担い手も高齢化が著しく、厳しい状況に陥っており、基

幹産業の茶産業との連携などによる産業振興に期待が高まっている。

一方、交流人口の拡大による地域経済の活性化に向けて期待される産業として、茶を通じた体験プログラムを実施するなどの観光産業があげられる。町には長年の茶生産を通しての「茶香服（ちゃかぶき）」（利き酒のような競技）などの文化、美しい茶畑の景観など質の高い地域資源があるものの、観光を担う核と人材の育成ができていないため、まだ際立った効果が得られてはいないのが現状である。

こうした背景から、和束町では低迷する地域経済の向上に向けて、基幹産業である茶産業を機軸に、伝統産業や観光産業との連携を図りながら、産業振興と雇用拡大を早急に図っていくことが必要とされている。

（２）地域再生に向けた課題

和束町の地域再生における最たる課題は、茶産業と観光などの交流事業を連携させての産業振興と雇用創出に集約される。

茶産業の更なる活性化に向けた課題として、第一に茶産業における後継者育成の必要性が挙げられる。和束町の茶産業は、担い手の高齢化が著しく、後継者に恵まれず廃業する農家も少なくない。現在地域で大規模農家には後継者がいても、小規模農家には不足している現状がある。こうした事から新たに後継者を育成し、茶農家として創業させることで、産業と雇用を安定させていくことが必要である。

第二に荒廃茶園の再生、茶畑の景観活用ができる人材の確保が必要である。茶農家が廃業して、荒廃茶園となるケースが後を絶たない。荒廃する前に、大規模農家がこれらを借り上げ、活用するケースもあるが、実際に荒廃している面積には追いついていない。荒廃茶園は、一度荒廃すると、再生に多大な労力と時間を費やす上、和束町の優良な地域資源といえる茶畑の景観にも悪影響を及ぼすことから、阻止していかねばならない問題である。こうした荒廃茶園の再生と、茶畑景観の活用ができる人材の確保が課題といえる。

第三に茶を多角的に販売促進し、地域イメージ形成につなげる仕組みが必要である。町内で生産される茶の多くは、飲用の茶として流通しているが、ほとんどが宇治茶として流通している。したがって和束町が茶の産地であることは、茶専門卸業者を除いて知られていないのが実情である。こうしたことから、和束茶を飲用以外の加工品として展開し、地域イメージの形成につなげる仕組みと、人材育成が重要である。

交流事業の拡大に向けた課題として、第一に来訪者へ和束茶の喫茶・物販を通じて楽しませることのできる人材が必要である。茶の一大産地であるにも関わらず、町内で茶を楽しめる飲食店、物販店は少ない。立地上、地域外から一定の交通量があると考えられるが、それらを誘引する仕組みがほとんどない。そこで来訪者が喫茶・物販などを通じて、茶を楽しませることのできる人材が必要である。

第二に来訪者が地域産業を体験し楽しめるような場の創出が必要である。和束町は周辺の市町村と比較して、地域における茶畑の占有率が大きく、丘陵地に広がる美しい茶畑の景観を有している。こうした特性を活かして、茶摘みなどの農業体験や、「茶香服」などの文化体験の取組みを実施している。しかしながら、こうした体験プログラムの受け入れは、

イベント開催時の限定になっており、恒常的に受け入れる仕組みができていない。実際、プログラムでコーディネートしたり指導したりする人材が不足していることから、これらの人材育成と能力開発が必要である。

地域の雇用事情を踏まえた課題として、第一に地域内雇用が少なく、新たな雇用は新規ビジネス創出が不可欠である。町内には大規模な企業が少なく、地域内雇用は少ない。実際に、地域内でコミュニティビジネスの規模で創業を考える人材は存在しても、実施ノウハウが不足している。したがって、地域内で新規ビジネスを創出していくためのノウハウ提供が必要である。

第二に慢性的に不足する臨時雇用を補填する仕組みが必要である。町内には中規模な農家が多く存在するが、いずれも茶産業の繁忙期である約2ヶ月間、慢性的に臨時雇用が不足している。こうした不足人材を安定的に補う仕組みが必要である。

(3) 目標

「無い物ねだりからあるもの探しへ」の意識転換を図り、地域産品のブランド化・情報の発信、販路拡大・新商品の開発、交流人口の拡大と認知度の向上、伝統産業の継承と発展にむけた産業振興と雇用の創出など、前記した背景課題から和束町地域再生計画では、4点を柱に、産業振興と雇用創出を推進する事を目的に平成22年3月末日を目途に、地域住民の意識改革、各種技能取得・教養向上を図り、閉鎖的になりがちな地方を活性化することで地域再生を図る。

「和束茶」ブランドの定着化促進

- ・民間企業との連携による料理フェアの開催や各種イベントの開催を通じた、国内外へのプロモーション推進
- ・京都の食文化情報発信の取組みである「京都味わい物語」等の活動を通じた和束茶の情報発信・食の提案の推進。

茶産業における国内外への販路拡大など、新規領域の拡大

- ・茶の景観や地域人材を生かし、来訪者が茶を楽しむような場づくりの推進（和束茶カフェづくりの推進）
- ・外国人向けインターネット販売の推進による販路拡大。

茶を活用した交流事業の促進による交流人口拡大と認知度向上

- ・茶の体験プログラムや茶農家民宿等を通じた交流事業の推進
- ・国際ワークキャンプの受け入れの継続・拡大
- ・都市農村交流イベントの主催・参加

茶産業の継承と発展に向けた産業振興と雇用創出の推進

- ・茶産業の後継者育成と臨時雇用供給における受け皿づくりの推進
- ・海外をターゲットにした有機茶の生産促進及び付加価値化の推進
- ・地域全体の就業安定化による定住の促進

【具体的目標】

雇用に関する目標

	2007年度	2008年度	2009年度	合計
常雇	7人	17人	26人	50人
常雇以外	8人	19人	29人	56人
創業者	1人	8人	8人	17人
計	16人	44人	63人	123人

産業振興に関する目標

- ・(財)和束活性化センターの再生 雇用の拡充・拠点整備
- ・和束茶カフェの整備、和束茶加工販売の促進、交流人口の増(年/1万人)
- ・観光客入り込み数の増(目標値2010年:年間2万人)
- ・商工業者の活性化(販路の拡大・アンテナショップ等の整備)
- ・遊休施設の活性化、お茶を基調として交流施設整備

5 目標を達成するために行う事業

5 - 1 全体の概要

本計画は和束町の主力産業である茶産業を中心に、既存産業の拡大と新規ビジネスの拡大を促進し、また一連の産業振興による雇用創出を目指すことで、和束町の地域再生を促進することを目的としている。

計画の実施に当たっては、和束町の独自の取組みに加え、地域雇用創造推進事業(新パッケージ事業)を活用することにより、地域内でのノウハウの取得及び、人材育成による、「担い手」を育成する事により、「和束茶」ブランドの定着化促進、茶産業の担い手育成と国内外への販路拡大による既存産業の振興、茶を活用した交流事業の促進など新規ビジネスの拡大を推進していく。また同時に、これら産業振興に伴う起業や臨時雇用の安定供給を含めた雇用の創出に向けた事業を展開する。

5 - 2 法第5章の特別の措置を適用して行う事業

該当なし

5 - 3 その他の事業

5 - 3 - 1 その他の事業(基本方針に基づく支援措置)

(1) 支援措置の番号および名称

【B0902】地域雇用創造推進事業（新パッケージ事業）

（２）当該支援措置を受けようとする者

和束町雇用促進協議会

（３）当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

新パッケージ事業では和束町が自発的かつ継続的に産業の振興を通し雇用を創出していくことのできる地域になることを目指し、1.基幹産業である茶産業における新規事業の創出や多角的な販売による事業の拡大による雇用の拡大、2.荒廃茶園の再生と既存の茶園を引き継ぎ茶産業を拡大できるような人材の育成、3.茶産業・観光産業・伝統産業を連携させて新産業を創出できる人材の育成、4.和束町の認知度を、茶や景観など活用して向上させることのできるプロモーション人材の育成、5.これらの取り組みおよび雇用創出に向けた情報発信施策を展開し、雇用を創出する。

製茶事業者の経営スキル・販促スキルの強化学業

前年度実施した地域雇用創造調査研究事業における製茶業者や製茶農家へのヒアリングで要望の高かった拡販ノウハウ（特に海外）取得や、経営スキルの取得について講習会を実施し、ノウハウ取得による事業拡大による雇用拡大の土台を構築する

製茶業における雇用確保に向けたノウハウ取得事業

製茶業界における安定的な雇用確保に向けて、製茶業者を対象に、参入障壁の高い製茶業界の新規参入希望者や後継者の確保に向けたオーナー制度等による新しい雇用形態のノウハウや、短期就労者の共同雇用等のノウハウ取得及び、人材育成ノウハウ取得に向けた研修会を開催し、新しい雇用システムの構築を推進する。

町内における物販・飲食施設「和束茶カフェ（仮称）」の担い手育成事業

本年度和束町では、遊休化してしまった地域交流施設「グリーンティ和束」をリニューアルして、町内で「和束茶」の販売および飲食の提供のできる場の構築を予定している。宇治茶のなかでも最高品質を誇る「和束茶」を、茶畑に囲まれた町内で提供できる全国唯一の場として、販売・飲食のみでなく、情報発信の拠点としても位置づけていく予定である。そこで、「和束茶カフェ」運営に向けた人材育成として、「和束茶」を販売する店舗運営や陳列、積極サービスなどのノウハウを取得（先進地視察含む）するための研修事業を実施する。研修においては、実技研修設備として移動式厨房を導入し、講師指導による実技研修や、「グリーンフェスタ in 和束」における模擬店舗出展による実地研修を行い、習熟度の向上を

図る。

茶を活用した交流人口拡大事業として体験プログラム・農家民泊の人材育成事業

茶を活用した交流人口拡大事業としての体験プログラム及び農家民泊の担い手育成事業を実施する。実施内容は、現在イベントで実施している、茶香服、茶の手揉みなどの体験プログラムを、今後恒常的に地域で展開できるように、担い手の育成研修を実施する。研修においては、実技に加え、映像教材を整備することで通年対応化を図る。また、体験プログラムを企画・広報する人材の育成研修を実施する。さらに、体験プログラムは、農家民泊などの取組みと連携することが望ましいことから、ノウハウ取得のための先進地視察を行う。

海外向けに「和束茶」をオンラインで販売できる人材の育成事業

諸外国の企業・個人から茶の購入に関する問い合わせがあるものの、多くの農業経営者は単独での対応ができない。一部の農業経営者が、英語のホームページ作成を試みているが、ホームページの作成のノウハウが不足しており、苦労している状況にある。

そこでホームページの作成や、オンライン販売の実施ノウハウを提供するセミナーを実施し、担い手となる人材を育成する。これにより、将来的にインターネットで諸外国向けのビジネスを専業とする雇用が創出されることを支援する。対象として、一定のITスキルを持つ町民の参加を想定している。

茶を中心とした地域プロモーション人材の育成事業

日本茶インストラクターの養成（和束町内より幅広く募集）を実施する。「日本茶インストラクター」は社団法人日本茶業中央会が認定する資格であり、正しい日本茶の入れ方・飲み方・効能・文化などを習得できる。

町内では有資格者を茶のイベントに派遣している。町外からは、社団法人日本茶業中央会の関連団体である NPO 日本茶インストラクター協会など、関連団体から有償の講演依頼が入る、和束茶の情報発信面で最適な資格である。

しかしながら、こうした有資格者は、町内には数名しかいないのが実情であるため、資格取得支援事業を実施する。

起業・創業セミナーの実施

和束町には企業がほとんどなく、町内の求職者の雇用の受け皿は非常に少ない。従って、起業・創業によって町内の就業を推進する必要がある。そこで、起業・創業に関するセミナーを開催し、創業者輩出による就業促進を図る。

広報事業

協議会ホームページの開設・運営の中で、本事業で実施するセミナーの情報提供・受付、UJターンに向けた情報発信、アクセス数等データの集計管理を実施。また、紙媒体での広告の実施として、チラシの配布・ポスターの配置による

情報発信、新聞折込チラシ、雑誌・広報誌への掲載を実施する。

製茶業等における就職促進事業

製茶業においては収穫時期の春から秋にかけて集中的に大量の雇用が発生する。常雇・臨時雇用者の安定確保に向け、前項の協議会ホームページに、求人側である製茶業者・製茶農家と求職者が交流できる場を創設する。求人側が各々就業希望時期を掲載し、求職側が複数の情報を確認可能とすることにより、繁忙期の人材確保を容易にする。また、茶業閑散期が繁忙期となる「しめ縄産業」等の求人情報も併せて提供することにより、和束町内での長期就労化を促進する。

町内の若年者向け就職促進事業

若年層求職者のスキルアップを目的として、ビジネススキルセミナーを実施する。

5 - 3 - 2 その他の事業（支援措置によらない独自の取組みなど）

（1）茶産業における新産業の創出、多角的な販売による事業拡大を目指す取組み

地域力再生プロジェクト支援事業（京都府）

他地域に誇れる茶産業を軸としたグリーンツーリズムや体験型観光資源を創出し開発することによる、地域コミュニティの形成と共に、都市農村交流拠点整備を図る。事業内容は以下の通りである。

- ・和束山の家周辺ティーパーク整備（多品種の茶樹を公園的に植栽し、常緑低木の特徴を活かし、年中散策できる憩いの場と、既存の温室を活用した茶樹栽培も行うことで、通常より長期にわたるシーズンに、茶摘等も体験できる）
- ・和束茶カフェ整備（グリーンティ和束を活用し、和束町の案内・和束茶の提供・販売・お茶の淹れかた等を伝授する拠点整備）
- ・各種都市農村交流事業開催
- ・上記各事業を推進・啓蒙を図るために必要なツールとして、茶娘衣装の製作や茶香服道具・茶器の他、パンフレット等の作成

がんばるふるさとづくり事業「NPO 法人わづか有機栽培茶業研究会」の設立と活動

「NPO 法人わづか有機栽培茶業研究会」は平成 15 年、地球環境の保全・育成、世界に誇れる和束の茶づくり、和束町のあらゆる人とのパートナーシップづくりを目指し、茶産業関係者を中心に、和束町の有機栽培茶業を広めることを目的に設立され、現在は 24 人が会員となり活動している。

活動内容は、当初は農繁期の人手不足の解消のため、京阪神の大学の学生相談所に農業に関心をもつ大学生を募り、アルバイトの紹介や、都市での和束茶

のPR活動等を実施していた。

その後、国際ワークキャンプを主催するNPO法人NICE（ナイス）と連携し、国内外の若者が参加する国際ワークキャンプの受け入れ地としての活動を実施している。ワークキャンプでは、茶業体験や、町内の保育園・小学校や老人クラブなどとの交流の場を提供し、和束町および和束茶を海外へ広めるのと同時に、国際感覚あふれるまちづくりにも貢献している。キャンプの参加者や主催者との間には長年の活動による友好関係が築かれており、プレキャンプとして町にある寺社の清掃や、茶業における収穫期の手伝いなど、定期的なボランティア活動が定着しつつあり、交流人口の拡大という面で貢献している。

JAPAN ブランド育成支援事業

JAPAN ブランドは、海外市場において通用する高い評価を確立するため、地域の企業などと連携しながら、市場調査、専門家の招聘、商品の企画を行い、国内外の展示会への参加などを通して認知度の向上と販路開拓活動を実施する事業である。

本事業では検討の場としてプロジェクト委員会、ワーキング委員会を設置し、和束の茶を「究極のリラクゼーション」「健康的な飲み物」「宇治和束茶」としてブランド化し定着を図るため、主要市場をフランス（パリ）と定め、和束茶のブランド構築に向けての市場調査、国際食品見本市への出展などを実施した。本事業の実施により、町内の茶産業関係者におけるヨーロッパ市場への市場開拓意欲が拡大しており、地域レベルでの勉強の場も持たれるようになってきている。（実施主体：和束町商工会）

和束茶の加工品の開発・販売事業

和束町では、これまで茶を活用した加工品の開発と販売に取り組んできた。代表的なのは、財団法人和束町活性化センターが主体となって製造している和束茶葉100%の缶飲料であり、和束の茶の販売促進ツールとして活用されている。

また、茶を活用した菓子の開発やキャラクターの考案などにも取り組んでおり、地域の非農家女性活動団体「恋茶クラブ」などとの情報交換を進めながら、活動の場を広げている。（実施主体：財団法人和束町活性化センター、和束町商工会）

（2）荒廃茶園の再生および茶産業の後継者育成の取組み

小規模事業広域活性化事業「ほっこりサークル」

「ほっこりサークル」は和束町と南山城村の茶の消費者を結ぶコミュニティーサークルとして和束町商工会等の呼びかけのもとに結成された。サークルのメンバーは地域の茶業関係者と和束茶や和束・南山城の自然の愛好者で、現在の会員数は約300人。活用内容は、メンバー間の交流を目的に、「ほっこりだ

より」(季刊誌)の発行、和東茶に関するイベントの実施、荒廃茶園の再生事業、茶香服段級認定会の開催などを実施している。近年では茶に関する講演、おいしい茶の入れ方と合わせた試飲販売の実施など、町外へと活動の幅が広がっている。(実施主体：和東町商工会、南山城村商工会)

農林業振興事業「和東茶手揉技術保存会」の設立と活動

茶の「手揉み技術」は、日本の伝統的な製茶の文化の一つであり機械製茶技法の基本にもなった技術であるが、現在では技術の継承者が少なくなったため、製法技術の保存・伝承とともに茶文化の普及に努めることを目的に、平成 11 年「和東茶手揉技術保存会」が町内若手茶業者 16 名により設立された。

活動内容は、新茶の初市への出展、町内の小・中学校が取り組んでいるふるさと教育での手揉み体験、「ほっこりサークル」(前述)が主催する農業体験での講師や技術指導を行っている。

町も手揉み技術を実践するため、焙炉やユニフォームの準備、全国手揉製茶技術競技会への出張支援、地域内団体との交流など一連の取組みに支援を行っている。(実施主体：和東茶手揉技術保存会、和東町)

(3) 茶産業・観光産業・伝統産業を連携させて茶産業を拡大する取組み

国際ワークキャンプ(NICE)の活動支援

国際ワークキャンプは、日本・東南アジア等で、新しい環境・福祉・地球協力 地域ボランティア団体を支援する 地球色の友情・理解・連帯を育てる活動をねらいに、9カ国で年間 54 回開催され、世界の若者が 2~3 週間一緒に暮らし、住民達と、環境・文化保護・農村開発などに取り組む国際ボランティアプロジェクトで、平成 12 年からわづか有機栽培茶業研究会が誘致し、日本の文化である茶を通して、地域の活性化に取り組んでいる。

毎年、海外から 10 数名・国内大学生等 10 名が参加して、世界・日本中のお茶の木を植える「お茶公園」基盤づくりや、数件の農家に分かれて茶刈り等の農作業を行う共に、保育園・小中学校訪問・町おこし座談会なども行っている。国際ワークキャンプは、20 日間にわたるもの、週末キャンプもある。また、国際センター・女子大生・中学生の体験事業やゼミ・修学旅行の受け入れも行っている。(実施主体：NPO 法人 NICE (ナイス))

地域資源を活用した交流事業

財団法人和東町活性化センターでは、「体験交流センター」や遊休施設「グリーンティ和東」を活動の場として活用して、春には「ワラビ採り」「お茶摘み」、夏には「魚のつかみ取り」、秋には「松茸狩り」「椎茸狩り」「芋掘り」、冬には「しめ縄づくり」「寄せ植え」等の各種体験型ツアーを実施するなど地域資源を活用した交流人口拡大に向けた事業を実施している。(実施主体：財団法人和東町活性化センター)

(4) 和束町と主要生産物としての茶の認知度を向上させる取組み

「グリーンフェスタ in 和束」の開催

町内外の交流促進を目的に、町内農家のお茶を中心とした特産品の販売と、手揉み体験等各種催しによるイベントを年1回、「活道ヶ丘公園」で開催している。(実施主体：和束町)

(5) UJターン誘致、移住促進などに向けた取組み

京のやましろ田舎暮らし実践プログラム

「京のやましろ田舎暮らし実践プログラム」は、田舎暮らし希望者が、年間を通して農山村を訪れ、町民と協働で農業体験をするなどの活動を通して、農山村生活を肌で感じるとともに、地域活性化を目指す事業。

受け入れは隣接する南山城村と連携して実施し、和束町のプログラムとしては湯船地域におけるトマトの収穫・管理などを行った。(実施主体：京都府山城北農業改良普及センター、京都府、和束町、南山城村)

6 計画期間

認定の日から平成22年3月末日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

地域再生計画の目標については、計画の終了後にその数値を明確化し評価・公表するとともに、平成19年度に設置する産業界・経済団体・行政などから構成する「地域再生実践会議」において、達成状況の評価、改善すべき事項等の検討を行う。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

特になし